

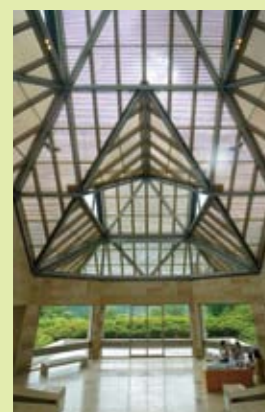


トンネルを抜けると そこは“桃源郷”

信楽町郊外の深い緑に囲まれた山中のトンネルを抜けると姿を現すミホ・ミュージアムは、1997年に開館した公益財団法人秀明文化財団が運営する美術館。コンセプトの「桃源郷」は、ロケーションの素晴らしさを表現しています。

美術館へは、広大な敷地に建てられたレセプション棟から電動カートで敷地内の道路・トンネルを抜け、アプローチ橋梁を渡って入場する仕組みです。

米国建築家LM.ベイ氏のプロデュース・デザイン、レスリー・ロバートソン氏の構造設計により施工された長さ120mのパイプトラス斜張橋（斜めのワイヤで橋を支える半吊り橋）は桃源郷＝美術館と現実の世界とをつなぐ「架け橋」として重要な役割を果たしています。その芸術的な気品と自然との調和を高く評価され、2002年にメルボルンで開催された国際構造工学会で「優秀構造賞」を受賞しました。



ミュージアム内観。モダンにデザインされた入り母屋型の屋根からはスカイライトが差し込み、ライムストーンやカラードコンクリートに代表される温かみのある質感が印象的なミュージアム内部



利用者の移動の便と環境に配慮し、電気自動車が見え隠れするレセプション棟と美術館棟の間を往復している



レセプション棟のエンタランス外観。スペースフレームで構成される屋根が目玉の展示館の外観デザイン



トンネル上部の山側から見た美術館の全景



■橋梁概要

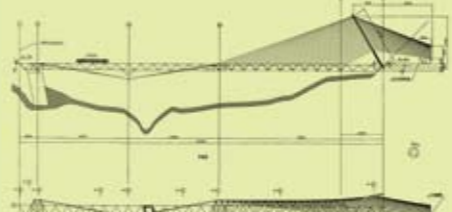
- 形式 逆斜張ケーブルを有する鋼パイプトラス斜張橋
- 橋長 120m
- 幅員 7.5m
- 最高高 19.8m
- 総鋼重 420t

● 使用材料

- ・主桁トラス: KHP60, STK490
- ・塔: SM520C, SM490Y
- ・鋳鋼部: SCW620, SCW550
- ・ケーブル: スパイラルロープ
- ・床版: セラミック充填ステンレスグレーチング (SUS304)
- ・高欄: SUS304

■橋梁図面

橋梁南立面



橋梁平面

「ごあいさつ

近畿の「安全・安心」を守るために

社団法人 日本建設業連合会
関西支部 支部長

河本 克正



このたびの東日本大震災により被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

震災の衝撃も冷めやらぬ本年4月、日本土木工業協会、日本建設業団体連合会、建築業協会の3団体が統合し、社団法人日本建設業連合会（略称:日建連）として、新たに生まれ変わりました。

新生・日建連では、さっそく緊急災害対策本部を組織し、国、地方自治体との連携のもと、組織をあげて復旧支援に努めて参りました。

それとともに、私たち関西支部では、近い将来必ず起こるといわれている東南海・南海地震に備え、近畿の防災インフラ整備促進の重要性を、機会あるごとに市民の皆さまに訴えてきました。

現在、近畿の社会基盤整備は、決して十分に進んでいるとはいえません。

さきの東日本大震災では、耐震補強を施した道路や鉄道の被害は最小限に食い止められましたが、ここ近畿では、そのような対策もいまだ道半ばという現状です。また、ダム計画や防潮堤の建設などの治水事業や、あるいは小中学校の耐震対策さえ、国や自治体の懸命の努力にもかかわらず、思うように進んでおりません。

このような状況で、大地震や巨大台風等の自然災害が近畿を襲えば、近畿全域が甚大な被害を受けることは、「想定外」どころか、まったく想像に難くありません。

いま、私たちは、できる限りの防災対策を講じなくてはならないのです。

関西支部広報誌「しびる」28号発刊にあたり、この小冊子が、このような現状を市民の皆さま一人ひとりがしっかり受け止め、とくに防災面における社会基盤整備の大切さを真にご理解いただくよすがとなることを願ってやみません。



「100万人の市民現場見学会」をこれからも続けて参ります。

幅広い層の人々に土木や社会資本整備が人々の暮らしと直結していることへのご理解と土木への親しみを感じていただくため、様々な建設現場の見学会を2002年11月より実施してまいりました。

おかげさまで2005年11月には、100万人（全国規模）を達成し、2010年8月には200万人（累計）を突破しました。

これからも各地の建設現場で市民現場見学会を続けて参ります。



和泉府中の立体交差工事に小学生が参加